

# フーリングいずも特別講演会 「平穩死のすすめ」

～あなたは口から食べられなくなったらどうしたいですか？～

講師：石飛幸三さん（特別養護老人ホーム芦花ホーム医師）



「平穩死のすすめ」をお読みにになりましたか？  
文芸春秋やNHKをはじめとする各種メディアで取り上げられるなど今、全国で大きな反響を呼んでいます。それは口から食べられなくなった終末期の高齢者に病院や施設で胃ろうや経鼻栄養を行うなどしている現状に問題提起をする内容だからと言えるのではないのでしょうか。

その著者である石飛幸三さんを講師に迎え、高齢者の尊厳ある終末期の生活のあり方や看取りについてともに考えます。

2012年

3月8日(木)  
午後7時～8時半

ビッグハート出雲  
白のホール

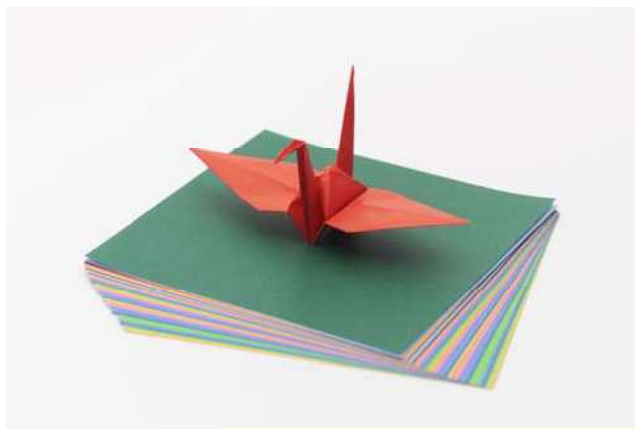
参加自由(申込不要)  
参加費は500円

(「平穩死のすすめ」本文から)

入所者が食べられなくなってからの最後の数日間の様子を見ていると、喉の渇きや空腹を訴える方に出会ったことがあります。何も体に入っていないのにおしっこが出ます。自分の体の中を整理整頓しているかのようです。

ある人はこれを氷が溶けて水になっていくのと同じで、体が死になじんでいく過程だと言います。このような状態では体から自然に麻薬様物質であるエンドルフィンが出ると言われています。だから苦痛がないのだと言います。私にはその感じがよく判ります。せっかく楽に自然に逝けるものを、点滴や経管栄養や酸素吸入で無理矢理叱咤激励して頑張らせる。顔や手足は水膨れです。

我々は医療に依存し過ぎたあまり、自然の摂理を忘れているのではないのでしょうか。



石飛幸三(いしとび・こうぞう)

1935年生まれ。出雲市湖陵町出身。1961年慶応義塾大学医学部卒業。1970年ドイツ、フェルディナント・ザウアーブルッフ記念病院で血管外科医として2年間勤務。1972年より東京都済生会中央病院勤務。1993年同病院副院長。2005年より世田谷区の特別養護老人ホーム「芦花ホーム」に勤務。

★「フーリングいずも」は福祉に携る人たちの交流と学習の場です。  
★福祉の理念・根本を追求し、出雲の福祉のあるべき姿を熱く語りあいましょう。  
★お互いの施設ケアなどについて情報交換したり、悩みを打ち明けたりできる場が「フーリングいずも」です。

お気軽に電話・メールをください。  
フーリングいずも事務局  
井上 明夫  
090・4570・6577  
akichan550212@yahoo.co.jp